

平成 30 年度以降入学者の科目履修について (平成 32 (2020) 年度以降編入学者を含む)

1. 卒業に必要な単位数

4 年以上在学（3 年次編入学者は 2 年以上）して、以下に定める単位を修得した人は、学士試験に合格したものと認められ、学士の学位が授与されます。

卒業に必要な単位数は 140 単位以上（3 年次編入学者は学部専門科目 84 単位以上）です。そのうち全学共通科目は 56 単位以上、学部専門科目を 84 単位以上修得しなければなりません。

卒業論文（選択）の合格者には 6 単位が認められます。

全学共通科目については、以下の表に示すとおり修得しなければなりません。卒業までに修得すべき全学共通科目の単位数は、外国語科目群において英語を選択するか否かによって、修得すべき人文・社会科学科目群、外国語科目群及び E 科目の単位数が異なります。

なお、全学共通科目の履修についての詳細は、『国際高等教育院HP』を参照してください。

全 学 共 通 科 目	人文・社会科学科目群	英語を選択する場合： 14 単位以上 英語を選択しない場合： 10 単位以上	英語を選択する場合： 32 単位以上 (左記で各科目群が要求する最少の単位数の合計ではない。右記に従うこと)	英語を選択する場合： 各科目群が要求する最少の単位数の合計 28 単位に加えて、外国語科目群を除く任意の科目群から 4 単位以上を修得すること。人文・社会科学科目群においては「外国文献研究（経・英）A・B」計 4 単位を含むこと。かつ、「外国文献研究（経・英）A・B」以外の任意の科目群の E 科目 4 単位以上を含むこと。ただし、「外国文献研究（経・英）A・B」は計 4 単位を超えて修得することはできない。 (E 科目については下欄の表を確認すること)
	自然科学科目群	8 単位以上	英語を選択しない場合： 24 単位以上 (左記で各科目群が要求する最少の単位数の合計である)	英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、イタリア語、スペイン語、朝鮮語、アラビア語、日本語のうちから 2 か国語を履修すること。ただし、日本語は外国人留学生のみ選択することができる。 英語を選択する場合、「英語リーディング」計 4 単位、「英語ライティングーリスニング A・B」各 2 単位計 4 単位、計 8 単位修得すること。 英語以外の外国語（日本語を除く）を選択する場合、初級から 8 単位以上、中・上級から 8 単位以上、1 か国語につき計 16 単位以上修得すること。 日本語を選択する場合、「日本語（上級）」「経済・経営日本語（上級）I・II」から計 16 単位を修得すること。
	情報学科目群	6 単位以上		
	健康・スポーツ科目群			
	キャリア形成科目群			
	統合科学科目群			
少人数教育科目群				
外国語科目群	英語を選択する場合： 24 単位以上 英語を選択しない場合： 32 単位以上			
合計		56 単位以上		

E 科目	上記の単位数のうち 8 単位以上含むこと	外国語科目群で英語を選択する場合、「外国文献研究（経・英）A・B」から4単位、それ以外のE科目（科目群、E科目のカテゴリーは問わない）から4単位以上、計8単位以上を含めなければならない。
------	-------------------------	---

学部 選択 科目	選択科目 84 単位以上 (演習及び卒業論文の単位を含む)	
	経済学部専門科目の特殊講義科目・経済学部開講の法学部科目・他学部科目を合わせて20単位まで卒業単位数に算入することができる。ただし、他学部科目については8単位までとする。	
	なお、他学部科目を卒業単位数に算入するには、「履修の仕方と単位の取り扱いについて」の(7)に従って所定の手続きをする必要があるが、経済学部開講の法学部科目についてはこの必要はない。ただし、他学部科目には、卒業単位数に認められないものもある。	
	合計	84 単位以上
総計		140 単位以上

2. 全学共通科目の履修について

(1) 全学共通科目は全学年で修得できますが、なるべく1・2回生時点で修得することが望まれます。

3・4回生で修得しようとする場合は、全学共通科目と3・4回生配当学部科目との試験日時が重複する可能性があります。全学共通科目の履修登録単位数の上限は、1開講期につき34単位です。ただし、集中講義は履修登録単位数の上限には含まれません。なお、通年科目については、総単位数の2分の1が1開講期あたりの単位数としてカウントされます。

(2) 各群における指示事項

① 人文・社会科学科目群について

外国語科目群において英語を選択しない場合でも「外国文献研究（経・英）A・B」（2回生以上対象科目）は修得できますが、修得すべき全学共通科目の単位としては認めません。

② 自然科学科目群について

数学は経済学の学習に必要な不可欠な科目であるため、下記 a. の講義を履修することを強く推奨します。また、理系入試による合格者及び理論経済学・統計学を専攻する予定の学生は、理学部・工学部指定の数学の講義 b. を履修することを強く推奨します。数学の履修に関する質問があれば、入門演習の担当教員に相談することができます。

a. 数学基礎（経済学一般の学習に最低限必要な数学力の修得を目指す）

「数学基礎 A・B（8 単位）」を履修してください。

b. 理系用数学講義（理論経済学・統計学を専攻する上で最低限必要な数学力の修得を目指す）

「微分積分学（講義・演義）A・B（6 単位）」「線形代数学（講義・演義）A・B（6 単位）」を履修してください。なお、これらの科目は、特別履修の手続きが必要になりますので、所定の期間内に履修手続きを行ってください。

上記 b. を履修した学生は、引き続き「微分積分学続論 I・II（4 単位）」「線形代数学続論（2 単位）」を履修することを推奨します。

③ 外国語科目群について

- ・ 外国語科目において英語を選択するか否かによって、修得すべき人文・社会科学科目群、外国語科目群及び E 科目の単位数が異なり、入学時の外国語選択届に従い事務処理が行われます。入学時に英語を選択していたが英語の選択をやめる場合、もしくは英語を選択していなかったが英語選択に変更する場合は、これに応じた事務処理を行う必要がありますので、全学共通科目学生窓口で変更手続きを行ってください。
- ・ 「フランス語Ⅰ（8H コース）」は 16 単位中 8 単位のみ、「ドイツ語Ⅰ（6H コース）」「ドイツ語Ⅱ（6H コース）」「フランス語Ⅱ（6H コース）」は 12 単位中 8 単位のみ、修得すべき全学共通科目の単位として認めます。
- ・ 「スペイン語Ⅰ（会話）」は、修得すべき全学共通科目の単位として認めません。
- ・ 初修外国語の履修において、「初修外国語初級免除」の場合は、卒業に必要な単位数を中級以上で修得してください。なお、初級免除を受けた場合は、必ず教務掛へ申し出てください。

④ E 科目について

- ・ 外国語科目群において英語を選択するか否かにかかわらず、「外国文献研究（経・英）A・B」は 4 単位を超えて修得することはできません。他学部生も同様です。
- ・ 「外国文献研究（経・英）A・B」は重複履修が認められます。例えば「外国文献研究（経・英）A」を 4 単位修得した場合、4 単位とも、修得すべき全学共通科目の単位として認められます。ただし、同一科目かつ同一教員の科目の履修は避けてください。なお、「外国文献研究（経・英）A・B」は平成 29 年度から開講されます。
- ・ E 科目を修得すると、その E 科目が属する科目群の単位数としてカウントされます。したがって E 科目を修得するほど、各科目群の要求する単位数を満たすことができます。また、そのため、E 科目を 8 単位以上修得しながら、各科目群の要求する単位数を最少単位数で満たした場合、先の表に述べられている通り、7 科目群で計 32 単位以上という要件を満たさないことに注意してください。
例 人文・社会科学科目群から、E 科目「外国文研究（経・英）A・B」を 4 単位、その他 E 科目を 4 単位修得しながら（E 科目計 8 単位）、人文・社会科学科目群の単位数を最少単位数の 14 単位で満たし、かつ、他の 6 科目群の要求する単位数を最少単位数で満たしても、これらの合計単位数は 28 単位に過ぎません。
この場合、さらに任意の科目を 7 科目群の中から 4 単位以上修得する必要があります。